

地域内乗数効果という考え方

1万円のうち80%が市内に残る場合（消費額）

A	8,000円	$8,000 + 6,400$ =14,400円	$14,400 + 5,120$ =19,520円	...
---	--------	-----------------------------	------------------------------	-----

市内の消費額



1万円のうち20%が市内に残る場合（消費額）

B	2,000円	$2,000 + 400$ =2,400円	$2,400 + 80$ =2,480円	...
---	--------	--------------------------	-------------------------	-----

「出典：大貝健二（北海学園大学経済学部）「わが国の中小企業政策の動きと条例制定運動」（2015）」

Aさんは、よく市内で買物をするパターンが多いです。それに対しBさんは、よく市外やネットで買物をします。この2つのパターンが続いた場合、AさんとBさんの同じ10,000円という収入が、市内経済に及ぼす影響はどれほど違うのでしょうか。

Aさんは、10,000円のうち8,000円を市内のパン屋や八百屋で使っているとします。この場合、市内に残るお金は80%です。そして、もしパン屋の従業員が市内の人だったら、Aさんのパン屋への支払いは従業員の給与として、さらに市内に留まることになります。

Aさんの一巡目では10,000円のうち8,000円、二巡目では8,000円のうち6,400円、三順目では6,400円のうち5,120円が市内に残ります。Bさんのパターンに比べてたくさんの金額が市内を循環していることがわかります。このパターンの場合、市内に残るお金が100円以下になるのはなんと21順目です。

市内で使われるお金は8,000円+6,400円+・・・
→最終的には約40,000円

Bさんは、10,000円のうち8,000円を市外のスーパーで使い、2,000円を市内の八百屋やクリーニング屋で使っているとします。この場合、市内に残るお金は20%です。

Bさんの一巡目では10,000円のうち2,000円だけが市内に残ります。その2,000円のうち、同じように20%が市内に残った場合、市内に残るのは400円です。三順目では市内に残るお金はたった80円です。

これらの金額を一巡目から足していくと、2,000円、400円、80円、計2,480円分市内で使われたことになります。

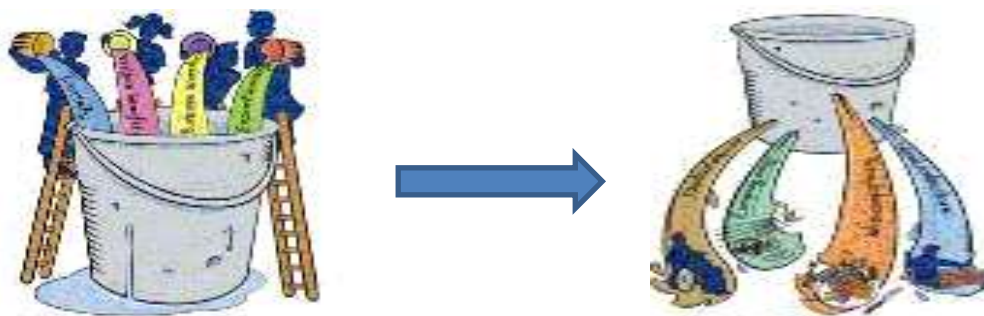
市内で使われるお金は2,000円+400円+・・・
→最終的には2,480円

10,000円でも市内でお金が循環することによってこれだけの差が生じます。これが1億円や根室市全体の需要1,920億円となると、もっと大きな効果があることとなります。

「地域でお金を使う」ということは、私たちが普段思っている以上に大きな意味があり、毎日の買物を市内のお店ですることによって、市内の経済にいつでも貢献することができます。

漏れバケツ理論

市内にお金が入ってきても、すぐに市外に出ていけば「市」は豊かにならない



「出典：明石修「地域経済を見る視点-地域内乗数効果-」（2015）」

以下参考

地域経済活性化のためには

- ① 外貨獲得
- ② 地域内経済循環の強化→地域内乗数効果の向上

地域内経済循環の強化するためには

- 最終消費財の域内率向上※
 - 地産地消、地消地産
- 中間投入（原材料）域内率を向上※
 - 域内産業連関の強化
- 所得の漏れを防ぐ
 - 地元企業、地域人材の活用
- 地域内再投資
 - 地域の貯蓄を地域内へ投資

11

※ただし、すべて自給しようとするのではなく、地域の強みや、すでにあるもの・ポテンシャルがあるものを有効に活用